

学生と対話、集中講義に「ミ二国試」 - 大阪医科大・大槻勝紀学長に聞く ◆Vol.2

国試不振受け、対策開始

スペシャル企画 2017年10月6日 (金)配信 聞き手・まとめ：水谷悠 (m3.com編集部)

[Vol.1はこちら](#)

——医師国家試験対策を今年度から開始したそうですね。

これまで医師国試の合格率はそんなに悪くはなく、過去2度程、合格率100%を経験していますが、今年は国試の結果が悪かったのです。医師国試が10年ぶりに難しかったというのがありますが、昨年は合格率96%だったのが、今年は82%。さらに悪いことに、来年から国試が変わります。一番解き易い一般問題が100題減って、500題が400題になります。難しい問題の比率が大きくなり、プレッシャーが増すわけですね。私の読みでは、数年後には全体の合格率がかなり下がると思います。というのは、国試の合格率は、翌年度の臨床研修医の数で決まるので、医師国試は資格試験でなくて競争試験です。2016年、2017年と2つ医学部が新設されて定員が増えましたし、東欧や中国の大学の医学部を出て日本の国試を受けに来る日本人学生もいます。これからは大変ですよ。



上の書は好きな言葉「敬天愛人」

大阪医大は自由な校風で、悪く言えば「ほったらかし」です。これまで6年生で留年させた数は毎年一桁。よほどのことがない限り、ほとんどフリーパスで進級させてきました。学年別で言えば、3年生はいわゆる進級試験がないので、ここで遊んでしまいます。そのため、今年国試の結果が悪かったので、予備校化したくないのですが、国試対策を始めることになりました。自由な学風が大阪医大なのですけどね。今年からは3年生にも進級試験を課すことになっています。

6年生は100人のうち下位50人に対して集中講義をやることになっています。

僕らの頃は、できの悪い人、怠ける人をみんなで引き上げてきたんです。でも今は、「自分が良ければいい」という学生が増えていて、できない子には大学としてレスキューをしないといけない。今更とも思いますが、知識の量的に不足している子は夏休みもないくらい、集中的にやらないといけません。学生には、「一体いつ勉強しているの。試験の時くらい本気で勉強せなあかん。」という話をします。先生方も、これまで過去問を使って再試をやるのが多かったのですが、新聞で全部やって頂きたいと教授会でお話しています。

関西には医学部が国立4つ、公立4つ、私学4つあります。公立が頑張っても京大や阪大に勝てないということで、私学も一緒になって、関西公立私立8大学学長の会というのを始めました。そこで私が提案したのですが、だいたい8大学で学生が1000人いますから、8大学共通のミ二国試をしよう。今年の10月にやります。大学の名前を背負ってこいと。でも、そんなことまでしないといけないかと、いまだに自問自答です。

——集中講義や試験の導入は学生の反発もあるでしょうね。

皆半身に構えますよ。「なんや学長ら張り切っとるやん、去年悪かっただけやん」と。でも、「私が全てをさらけ出して話しているのだから、君たちも本音で話せ」と言って、私はこうしたい、譲れるものと譲れないものがあると何度も話し合いをすると、同意してくれる人も出てきます。成績不良者は、下位50人に入ったら西医体（西日本医科

学生総合体育大会)に出さないとも言いました。そしたら猛反発です。でも、6年生までやる必要ないでしょう。「君ら医者になるんやろ、スポーツ選手になるのか」ってね。

日本では親が授業料を出していますよね、ほとんどの場合。米国では借金をして医学部に入り、成績優秀なら授業料の給付、悪かったら利子付きの貸し付けを受ける。だから親は授業料の心配をしない。日本は「甘ちゃん」なんですよ。だから学生には話をしないで、親を呼び出すんですよ。その方が早いからです。相当不人気な学長になっているのではないのでしょうか、今年は。

でも、やはり学生と話をするのが大事なことでした。試験のときなどに私が出て行って、6年生はちょっと残ってくれと言って意見交換を4~5回しました。ただし、学長に対して物を言う学生は4~5人くらい。他の子は、どうなるのかじっと見ているのではないのでしょうか。私などは医学部が一番少ないときの学生だったので、遊ぶ時は遊び、やる時は死ぬほど勉強しました。学生にいつも言っています。「死ぬほど勉強して死んだ者はいない」と。

大阪医科大・大槻勝紀学長に聞く

- Vol.1 超高齢化への対応は、大学の使命
- Vol.2 学生と対話、集中講義に「三二国試」